

経営比較分析表（令和5年度決算）

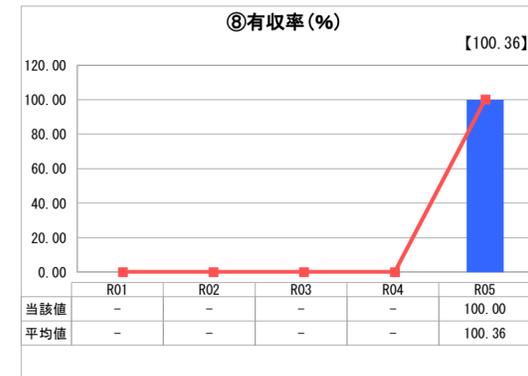
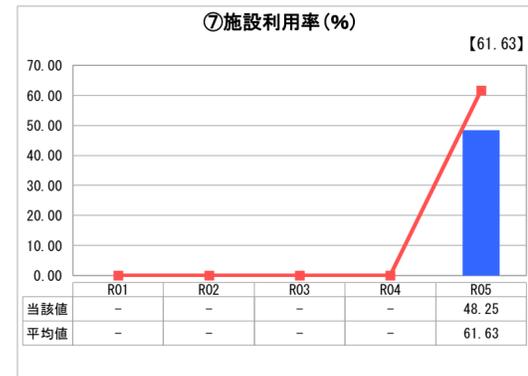
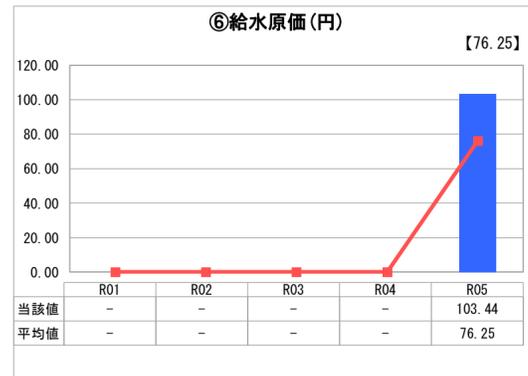
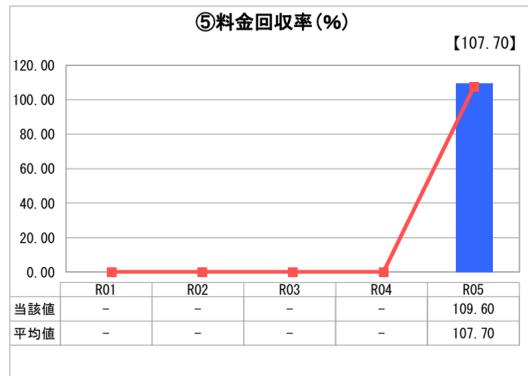
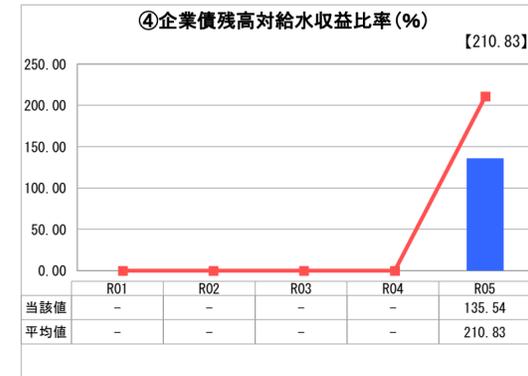
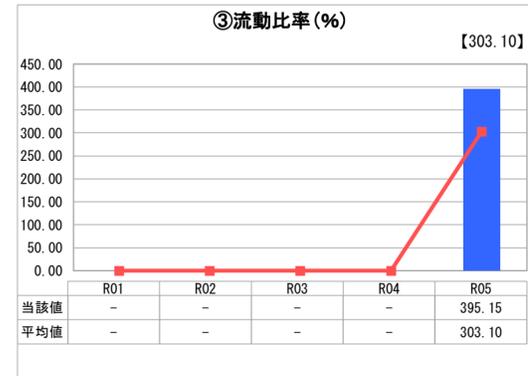
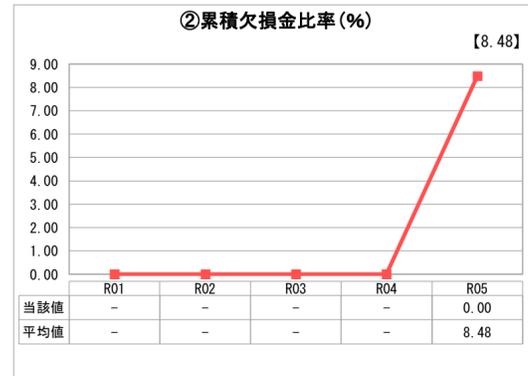
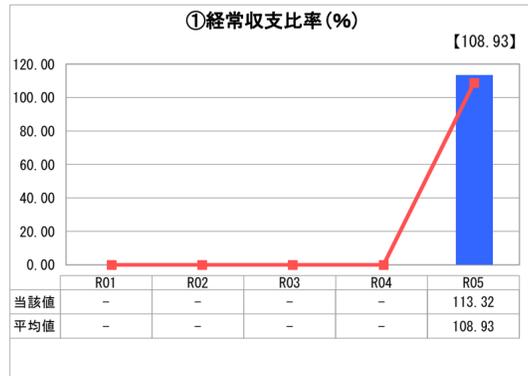
広島県 広島県水道広域連合企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員 民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.46	96.44	0	

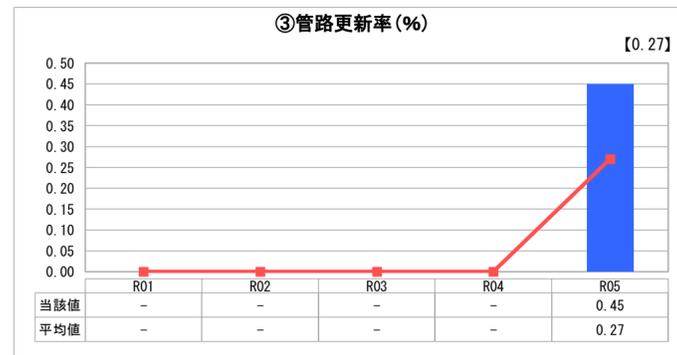
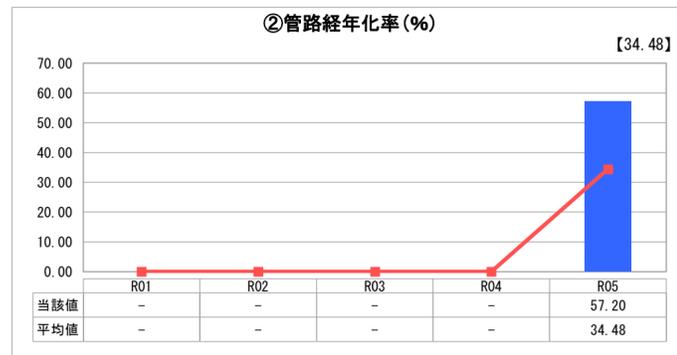
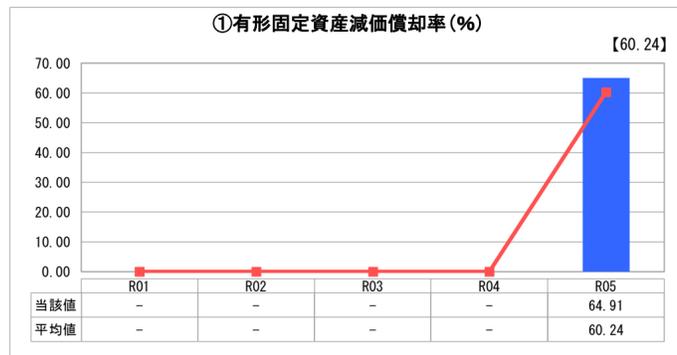
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,500,469	1,333.94	1,874.50

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率、②累積欠損比率】
 経常収支比率は健全経営の水準となる100%を上回っており、また累積欠損金もないことから、堅調な経営を維持している。

【③流動比率】
 短期債務に対し支払い可能な現金等の保有状況を示す流動比率は100%を上回り、支払能力を確保している。

【④企業債残高対給水収益比率】
 企業債の発行抑制に努めたことにより、企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値（以下「平均値」という。）を下回っている。

【⑤料金回収率】
 物価上昇等による費用の増加により、料金回収率は統合前と比べて減少傾向にあるものの、給水費用を給水収益で賄うことができる100%を上回っている。

【⑥給水原価】
 管路延長が長く、管路等の更新費用及び維持管理費用が高いため、給水原価は平均値に比べて高い水準にある。また、物価上昇等による費用の増加により、給水原価は統合前と比べて上昇傾向にある。

【⑦施設利用率】
 施設利用率は平均値を下回っている。これは、計画給水人口に対する現在給水人口が低く、水需要が建設当初の計画水量まで伸びていないためである。

【⑧有収率】
 有収率は100%を維持している。

2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率】
 有形固定資産減価償却率は平均値を上回っており、資産の老朽化が進んでいる。

【②管路経年化率】
 管路経年化率は平均値を上回っている。優先度の高い管路から順次耐震管に更新しているものの、昭和40～50年代に布設した管路が多く、老朽化が進行している。

【③管路更新率】
 管路更新率は、平均値を上回っており、今後は広域計画に則り、災害に強い耐震性のある管路に更新していく。

全体総括

水道用水供給事業の経常収支比率は100%を上回っており、現時点で、堅調な経営を維持している。

しかし、社会情勢の変化に伴い、資材価格の高騰や工事費等の費用が大幅に増加するなど、今後、一層厳しい経営状況が見込まれる。

本水道企業団では、統合のスケールメリットを活かし、施設の最適化や更新、コスト縮減を図るなどして、効率的な事業運営を進めていく。